

沖縄 半世紀の 変化

Changes in Okinawa over half a century

復帰前後と現在の様子を写真で比較する
タイムトラベル編

県庁周辺(那覇市)

本土復帰に伴い、琉球政府行政ビルは沖縄県庁舎として再スタートしました。その後、増大する行政需要に対応するため、1990年1月に新庁舎が同地に建設されました。旧庁舎の撤去時に発掘された琉球王朝時代の窯業窯「湧田窯」は県立博物館・美術館に移設されました。

復帰の頃



現在



美崎町周辺(石垣市)

石垣市中心部の730交差点から新栄町に向かう「市役所通り」の風景です。石垣市の市章をあしらった市役所は2021年11月に美崎町から真栄里の旧石垣空港跡地に移転後も、一帯は土産物店や飲食店が建ち並び、地元客や観光客でにぎわっています。

復帰の頃



現在



糸満ロータリー(糸満市)

戦後設けられた糸満ロータリーは復帰後、旧国道331号を南北に直進通過が可能となっていました。2015年10月には再び信号機を廃した環状交差点「ラウンドアバウト」として生まれ変わりました。写真はロータリー北東に位置する山巔毛(サンティンモー)から撮られました。

復帰の頃



現在



上与那原から東浜を望む(与那原町)

中城湾を望む与那原町東浜地区は、1996年に沖縄県主導で埋立事業が進められ「マリンタウン」として新たなまちづくりがスタートしました。従来の海岸線から0.82平方キロメートルが埋め立てられ、商業施設や住宅地、公園などが次々に整備されました。本島東海岸の南部地域における中核として発展を続けています。

復帰の頃



現在



豊見城城址公園／沖縄空手会館(豊見城市)

2003年11月に閉園した豊見城城址公園の跡地の一部には「沖縄空手会館」(2017年3月開館)、「おきなわ工芸の杜」(2022年4月開館)が相次いで設置され、沖縄の伝統文化の継承および発信の拠点として整備されています。グスクの保全・活用に向けた取り組みも進められています。

復帰の頃



現在



新川の高台から兼城十字路を望む(南風原町)

新川地区は首里の高台からなだらかな稜線を下る台地に位置しており、広く本島南部を見渡すことができます。写真は兼城十字路方面を望むものですが、現在は大小さまざまな家屋が立ち並び、復帰当時の面影はほとんど残っていません。左中央の小高い山は黄金森(クガニムイ)です。

復帰の頃



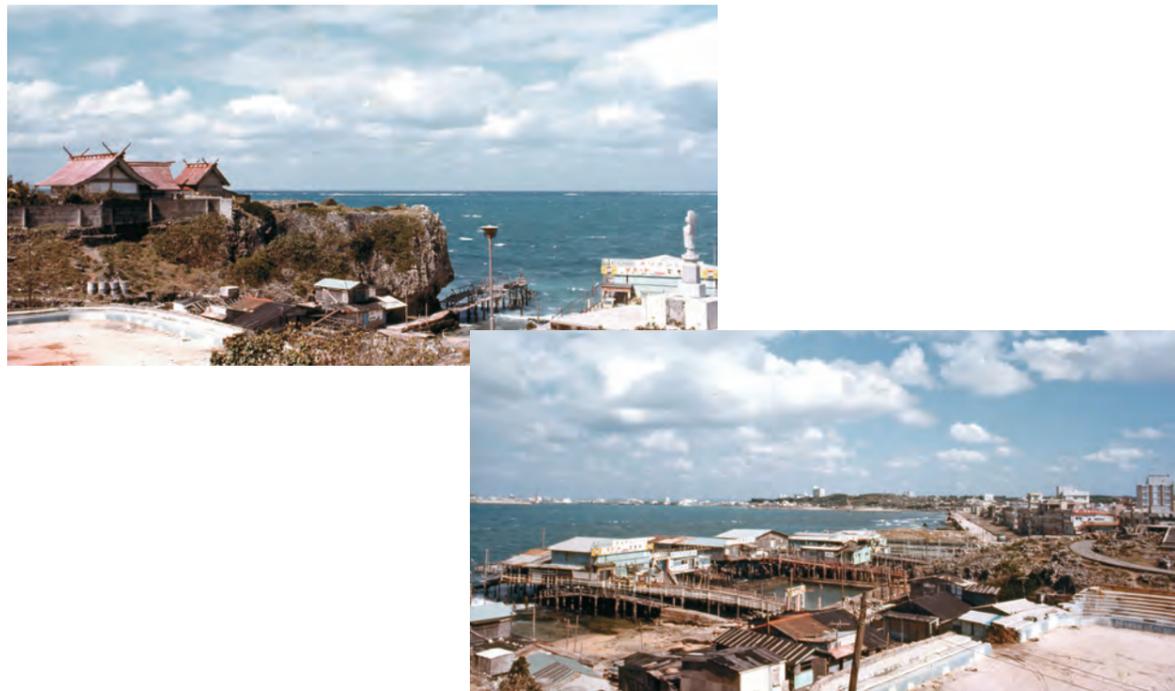
現在



波上宮周辺(那覇市)

復帰当時、波上宮の崖下には貸しボート用の桟橋や飲食店などが数多く軒を連ねてにぎわっていましたが、火事で焼失。現在は那覇市内唯一の海水浴場「波の上ビーチ」として整備され、市民や観光客に人気のスポットになっています。

復帰の頃



現在



国際通り(那覇市)

“奇跡の1マイル、”といわれた国際通りは、かつては県民向けの小売店やデパートなどが建ち並び、県内随一の賑わいを見せる通りでした。その後、大型商業施設の郊外進出や観光客の増加もあり、デパートが次々と閉店し、観光土産店や飲食店、ホテルが軒を連ねるようになりました。

復帰の頃



現在